

「徳島でグローバルな教師に」

私の将来の夢は、小学校の英語教師になることです。小学校時代、英語の授業で英会話教室に通っていた友達のスピードについていけず、苦い経験をしました。楽しいはずのゲームも、足を引っ張っているような気がして心から楽しむことができませんでした。そして、「わかっていている人の前で間違えたら笑われるのではないか」という気持ちから発言の機会も減り、英語に苦手意識を持ってしまいました。一方で、英語を話せるようになりたいという気持ちがあり、高校は国際英語科を選びました。

そこで、私の人生を大きく変える出来事がありました。それは、高校一年生の時に行ったオーストラリアへの海外語学研修です。最初の数日は、本場の英語につまずきカルチャ

ーショックで心が押しつぶされそうになっ
たこともありました。しかし、たくさん英語
に触れる機会を設けてくれたホストマザー、
夜遅くまで宿題を手伝ってくれたホストフ
アーザー、毎朝声をかけてくれたバスの運転
手さん、失敗しても笑顔で慰めてくれた先生
方等、人の優しさに触れ、温かさを実感しま
した。そして、だんだんと英語を使って会話
することに抵抗がなくなり、楽しいと思える
ようになっていきました。私はこのようにた
くさんの方々に支えていただき英語を好き
になることができました。今度は私が子ども
たちにきっかけを与える番です。大学生とな
り、さらなる英語力向上と異文化理解のため
に長期留学を計画しているところです。

また、私は徳島で教師になりたいと考えて
います。高校を卒業するまでの十八年間、私
はここ徳島県鳴門市で育ちました。ほのかに

香る潮のにおい、心地よい風、周りに広がる田んぼ道、鳴門にはたくさんの素晴らしい自然があります。県外に出るまではこれらがあり前だと思っていたため、その良さに気づくどころか都会に憧れを持っていました。県外に出ると人や車の多さ、交通機関の便利さ、賑わう街並みに驚きました。最初は新しい世界を楽しんでいたのですが、だんだんと徳島が恋しくなっていきました。毎回、徳島に帰るとバスから見える風景や降りた瞬間に吸う空気から心が落ち着き、やはり私は徳島が好きなのだ実感します。徳島は田舎であるため電車もなく、ましてや汽車も一時間に一本しかありません。大学で間違えて電車のことを汽車と言ったり、阿波弁を喋ったりすると笑われることもあります。私には常に徳島を誇りに思っています。高校生の頃は早く県外に出たいと思っていたのに今は徳島に戻

って働きたいという思いが強くなりました。それは県外に出なければ分からなかった徳島の良さを知り、そこが自分の原点であると気づかされたからです。

以上から、私は生まれ育った徳島で小学校の英語教師になりたいと考えています。今はグローバル社会と言われており、英語はますます必要になっていきます。そして、これから県外だけでなく世界に出て活躍していく子どもたちが増えていくでしょう。たとえ徳島を飛び立っても、生まれ育った故郷をずっと愛し続けられるような子どもを育てたいです。また、最近外国にルーツを持つ子どもたちが増えていますが、彼らがクラスに馴染めるような支援も必要です。難しいかもしれませんが、国籍を超えたクラスを作り上げることが私の目標です。

最後になりましたが、今日まで育ててくれ



た家族、いつも支えてくれる友達、そして私の夢を応援してくださる恩師の先生方に感謝し、これからも学び続けていきます。